

2021  
(令和3年)  
8/

7 土曜日

# 小学生新聞

MAINICHI

配達お問い合わせ  
購読お申し込み

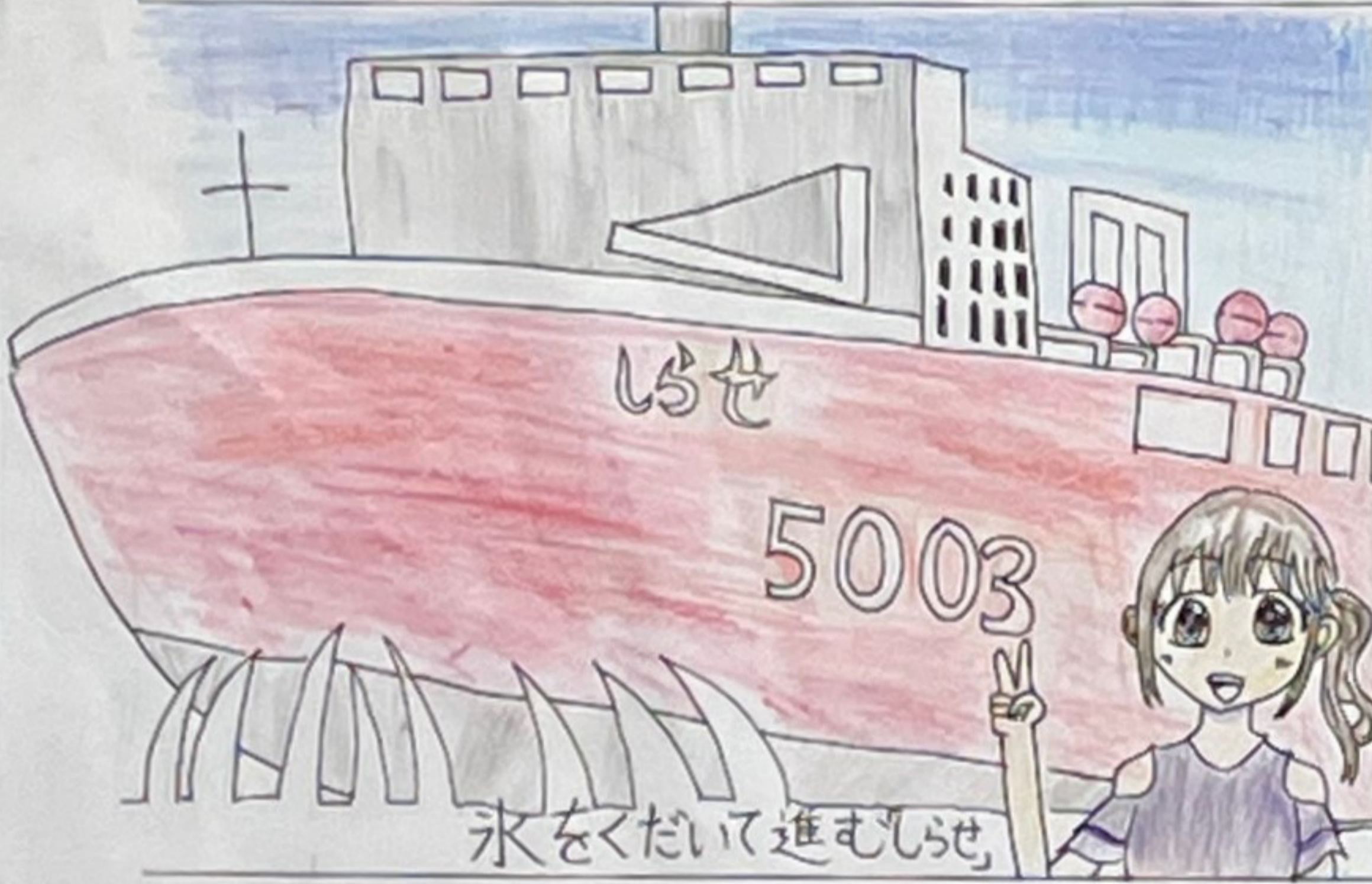
0120-468-012  
(6-21時、一部地域は平日16-18時)



毎日小学生新聞編集部  
〒100-8051 (住所不詳)  
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321  
メール maishou@mainichi.co.jp

定価 1ヶ月1750円 (税込) 送料別

## 南極観測隊のくらし



みんなに知ってほしい  
昭和基地

南極観測隊の人はテントはってフリしたりペンキの写真をとったりしている。真をとったりして、科学の力を使って地球のためになることを研究していた。そんなくらしを取材した。

八月七日(土) ZOOMを使って南極観測隊のだてさんにインタビューした。昭和基地にいただてさんは、毎小記者のみんなの質問に答えてくれた。

昭和基地には十八のしせつがあり、かん理棟やまよ住棟をつないでいるのが、高床式通路だ。雪がもっているときも行き来できる。隊員の部屋は約四割う分の広さで一人部屋だ。食事は隊員の中にあるコックさんが作っている。おいしいそうだ。食料は五年分のひじょう食がない。そなた。

南極で観測を続けるのは、地球をよく知るためだ。今、地球にさまざま問題がある。まな問題がある。地球のことをよく知らなければ、それらと正しく向き合うことができない。なうからだ。だから観測隊の人は一年以上も南極でえ、冬している。もし病気になるたら、医む室に行くが、手じゅうは、今まで二回もうかうを治したことがある。

南極ではお金のを使わない。なので日本に帰るとお金の使い方をわすれている。この取材で南極のことをもと知れた。「木全 麻耶」

### 伝書鳩の思い出なるほドリへ

毎日新聞報道社は、毎朝かな伝書鳩のほりにある。本社が入るパレスサイドビル(東京都千代田区二ツ橋)の屋上には、8羽のハトの籠が置かれている。ビルの設計者からの依頼で作られたというが、なぜハトの籠なのか。

そのように交通や通信が発達していなかった100年前、伝書鳩は新聞社にとって重要な通信手段だった。「伝書鳩」はハトの雄を雄用。報道の各新聞社では100羽以上のハトを飼育していた。取寄用から戻るときは、ハトを放つていったという。伝書鳩は通信用のうすい籠に記事を書き、長さ45cmほどの筒に入れてハトの足につけて送った。写真フィルムは長さ100cmほどの筒に入れ筒中にゴムバンドで巻かれた。ハトが新聞社にもどるとハト籠が記事や写真を筒に置いた。ハトたちは戻ると筒を筒の中にもどした。ハトには成績表がつけられ、成績が優秀なハトほど距離が長かった。成績が悪かったハトは、運動量を上げるためにくす玉から飛び出す殻をつとめたという。

毎日新聞では、東京オリンピックの次の年(1965年)まで天候に勝った。「なるほドリ」の専載するトリは伝書鳩。ハトたちのがんばりも受け継がれている。

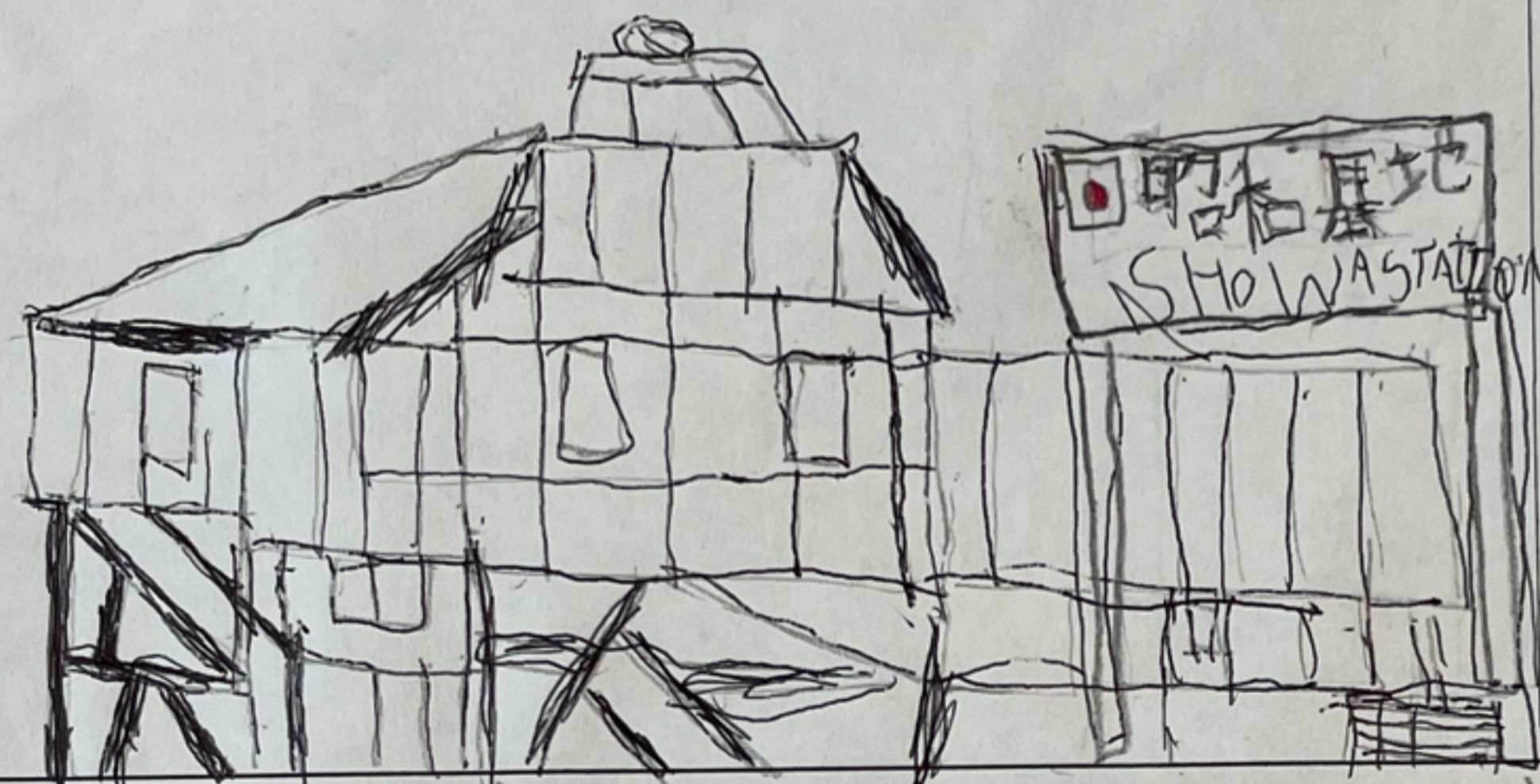


東京に到着した伝書鳩の足には記事が書かれた筒がはさかれています。筒の中にもどると記事や写真が筒の中にもどります。ハトには成績表がつけられ、成績が優秀なハトほど距離が長かった。成績が悪かったハトは、運動量を上げるためにくす玉から飛び出す殻をつとめたという。



毎日小学生新聞編集部  
郵便 〒100-8051 (住所不要)  
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321  
メール malshou@mainichi.co.jp

## 昭和はすべらない!?



昭和にも土がある

なまじい、くさくさのいぬは米たけ  
てびやていさるのてはありませ  
んのや、かわわがたぐく、こん  
土の上に昭和き、うは、たうて  
いさよ、だから、さ、ちがすべ  
たり、さ、ちの下の氷があれた  
りする、ことはありません。

日本じがんのれ、た、てものか、すべ  
ある、年、8、月、日、  
ぶ、ころ、の、半、から、  
かん、さ、く、の、昭、和、  
さ、く、に、い、る、た、い、ん、  
ま、ん、に、2、0、0、m、  
た、を、つ、か、つ、て、ま、ん、  
き、よ、く、の、き、こ、も、ん、  
じ、つ、い、て、は、た、し、を、さ、  
ま、ま、し、た、の、こ、れ、  
か、ら、日、本、か、さ、ま、  
く、か、よ、る、と、た、ん、  
ま、ま、は、た、い、い、  
が、て、い、る、ま、じ、が、  
ん、か、な、が、く、か、よ、る、  
そ、う、つ、ま、り、そ、  
う、つ、する、と、た、い、ん、  
ま、ま、は、く、の、い、ぬ、  
ん、は、ち、が、い、ろ、  
が、多、く、か、よ、り、  
ま、ま、も、土、が、い、ろ、  
が、思、い、え、る、ま、ま、に、  
か、よ、る、か、ら、ま、ま、  
な、ん、ま、ま、く、い、  
と、て、も、さ、く、ま、ま、  
て、い、ま、ま、ま、ま、  
た、い、ま、ま、ま、ま、  
い、て、ま、ま、ま、ま、の、

た、て、もの、か、す、べ、  
たり、お、ま、ま、ま、ま、  
れ、た、い、か、と、思、い、  
た、い、い、い、い、い、い、  
た、い、い、い、い、い、い、  
の、い、ぬ、ん、は、米、  
た、い、て、は、た、よ、く、ま、ま、  
山、石、も、多、く、い、ろ、  
ま、ま、な、ま、ま、の、た、い、も、  
は、土、の、上、に、た、て、い、  
る、の、い、ぬ、す、べ、た、り、  
下、り、ま、ま、あ、れ、る、  
こ、と、は、た、い、い、い、  
は、な、し、を、た、く、れ、  
た、た、た、た、う、み、  
へ、つ、た、ま、が、る、み、ち、  
ま、ま、で、ま、ま、い、  
の、て、あ、る、く、  
と、ま、ま、は、ま、い、か、い、  
わ、れ、た、い、か、う、う、か、  
ち、ま、ま、い、い、し、て、  
そ、と、に、い、て、い、る、  
と、し、い、つ、つ、こ、と、  
で、ま、ま、の、

### 伝書鳩の思いなるほドリへ

毎日新聞東京本社、緑豊かな  
皇居のほとりにある。本社が入るパ  
レスサイドビル(東京都千代田区  
一ツ橋)の屋上には、6羽のハト  
の像が置かれている。ビル設計者  
からの依頼で制作されたというが、  
なぜハトの像なのか。  
今のように交通や通信が発達して  
いなかった100年ほど前、「伝書鳩」  
は新聞社にとって重要な通信方法

新聞社にもどるとハト係が記事や  
写真を担当に渡した。ハトたちは原  
稿やフィルムを荷物も運んだ。  
ハトには成績表がつけられ、成  
績が優秀なハトほど出勤回数が多  
かった。成績が悪かったハトは、運  
動会を盛り上げるためにくす玉から  
飛び出す役をつとめたという。  
毎日新聞では、東京オリンピック  
の次の年(1965年)まで大活躍し  
た。「なるほドリ」の尊敬するトリ  
は伝書鳩。ハトたちのがんばりは今  
も受け継がれている。



東京オリンピックの伝書鳩の活躍を記録した写真。ハトたちは原稿やフィルムを荷物も運んだ。

8月7日

2021年 R3

# 極地研 新聞

発行者: 米村 紘

## 南極取材へGO!

どうして参加したか  
 南極にきょうみをもって毎日小学生新聞にワークショップとしてあったのでやってみました。南極62次 観そく隊にインタビューをしました。

観そく隊 情報係の  
 きんじょうさんにインタビュー

外の様子を教えてくださいました。日本では



午後4時30分ごろは南極では午前10時30分ごろです。時差は6時間ぐらいです。気温は-30.1度(その時の気温)だそうです。どれくらい寒いかというと洗濯物は約10分間でカチコチに凍ってしまうそうです。だから洗濯物は室内で干します。ちょうど加湿器の代わりになると言っていました。

船「しらせ」は1年に1回しか来ないので、基地で出たものはしょうきゃくろでもやして日本に持って帰るそうです。電気は風力・太陽光・ディーゼル発電の3つで電気をつくっています。

## 観そく隊だてさん

【記者: 米村 紘】

しつもん

にしつもん

### オゾンホールのはざぎ方は?



しつもんにご答えくれただてさん

### 答え

「オゾンホールとは、オゾンそのあなという意味です。」

あなをあけて  
 いるのはフロンガスというガスです。使うとあながあきますが使わなければ自然に復活します。

大気汚染  
 オゾンホールのはざぎも、日本!

1982年、日本の高層気球観測は、南極上空にオゾンホール(オゾン層の穴)を発見した。オゾン層は、地上から10~50km上空の気層にあって、太陽の光に含まれる有害な紫外線を吸収し、いざものを守っている。穴がひろがってはいけません。日本の貢献をきっかけに、オゾン層をこわすフロンガスを使うことは世界で禁止されることになったんだ。日本が世界に先駆けてオゾンホールを発見できた理由は、1961年からオゾン層の観測を継続し、積みかさねてきたデータがあったから、探検してことごとく、やっぱり大団円なんだね。

1979年10月 2011年10月

この穴が広がるとオゾン層が薄くなり、紫外線が地上に届きやすくなる。紫外線は、皮膚がんや白内障の原因になる。また、植物や動物の生態系にも悪影響がある。

南極の氷山は、氷山が溶けると海面上に浮かぶ。氷山は、氷山が溶けると海面上に浮かぶ。氷山は、氷山が溶けると海面上に浮かぶ。

そのため世界中でフロンガスを使わないとirikみが行われています。ですがフロンガスは分解されにくいガスです。だから今もどこかでオゾン層をこわしているかもしれません。完全に分解されるのは20~30年後かもしれません。思ったこと

南極に行ってみたいと思いました。それは62次観そく隊の隊長さんの「いろんな分野を研究している人がいるから自分の好きなことをつきつめてかんばって下さい」という言葉としつもんにご答えくれただてさんの「かんきょうなきうみかあたらせて来てみて下さい」と言ってくれたのではう来研究者として行ってみたいと思いました。